

龍谷大学  
大学院  
文学研究科紀要

第35集

2013年度

目次

〔論文〕

『往生論註』における願生の意義……………	内田准心……………(一)
坂東本「化身土文類」末巻における欠落箇所について……………	武末直也……………(一三)
東密における『瑜祇経』解釈の変遷……………	鍵和田聖子……………(二六)
日本唯識文献に見える中国唯識文献の引用部分に関する研究……………	李捷……………(四〇)
——特に地論撰論学派を中心とした『楞伽经』の受容について——	
玉鬘と継子たち……………	櫻井学……………(五四)
——〈継子譚〉としての『源氏物語』竹河巻——	
太田牛一『信長公記』編纂過程の研究……………	中村名津美……………(六六)
懐感浄土教の研究……………	榎屋達也……………(八三)
——善導浄土教と比較して——	
真宗仏性義再考……………	河邊大文……………(一〇〇)
——親鸞の仏性観の独自性——	
隆寛浄土教の研究……………	秃了真……………(一一五)
明遍教学の研究……………	西村慶哉……………(一二八)
本居宣長の思想形成とその展開……………	小林健太……………(一四三)
——京都遊学期を中心として——	

全真教団における「庵」と「環堵」について……………川股寛享…(一五六)

『源氏物語』の〈終わり〉と薫大将……………亀井久美子…(一七〇)

——僧都の手紙から浮舟、そして薫へ——

〔課程博士論文要旨〕

幕末維新期における真宗護法論の研究……………岩田真美…(一八七)

——超然と月性の排耶論を中心に——

法宝撰『一乗仏性究竟論』の研究……………小野嶋祥雄…(一九三)

章安灌頂の教学に関する研究……………村上明也…(二〇〇)

『源氏物語』宇治十帖の親子関係と性……………櫻井清華…(二〇九)

——フェミニズム批評の視座から——

真宗別途義の研究……………武田一真…(二二六)

——真言密教との対比を視座として——

密教思想の日本的展開……………亀山隆彦…(二三三)

——即身成仏を中心に——

〔論文〕

性役割観と夫婦関係満足度に関する質的研究……………狩野真理…(一)

——妻の視点から——

中国における涅槃変相図と『釈迦譜』……………岸田悠里…(一七)

——山西省博物館所蔵涅槃変相碑像を一例として——

アリストテレス『命題論』第九章における運命論の帰趨……………	金田 匡平……………	(33)
西郷文芸学の教育学的考察……………	村尾 聡……………	(48)
児童養護施設入所児童に対する有効な 心理的援助の要因についての分析……………	上  蘭 美 鈴……………	(63)
Reason and Free Will……………	田  辺 翔 平……………	(80)
—People's Inner Spirits in George Orwell's <i>Nineteen Eighty-Four</i> and Yevgeny Zamyatin's <i>We</i> —		
〔課程博士論文要旨〕		
葉榎度の研究……………	井 上 綾 瀬……………	(102)
ジネーンドラブッディの認識論……………	吉 田 哲……………	(110)
〔彙 報〕		
二〇一二年度大学院文学研究科修士論文題目一覧……………		(一三八)
二〇一三年度大学院 文学研究科 開講科目一覧……………		(一三三)
二〇一二年度後期～二〇一三年度前期 文学研究科院生の研究活動……………		(一四〇)
大学院文学研究科課程博士学位取得者一覧……………		(一五七)
『龍谷大学大学院文学研究科紀要』への投稿について……………		(一六〇)
龍谷大学大学院文学研究科紀要内規……………		(一六二)

二〇二二年度

大学院 文学研究科修士論文 題目一覧

真宗学

菊池 正信 現生正定聚についての一考察

東光 真法香 小児往生について

四茂野 大樹 「方便化身土分類」末の研究

—経論の引用意図についての考察—

岩田 香 『唯信鈔文意』にみる親鸞の称号観

—『唯信鈔』と比較して—

榎屋 達也 懐感浄土教の研究

—善導浄土教と比較して—

正親 智隆 真宗伝道の方法論的考察

—国語科の授業法に関連して—

奥田 桂寛 浄土真宗における伝道とその展開

小野 真世 横超断四流釈の利益の位置づけ

—現當二益を通しての見解—

河邊 大文 真宗仏性義再考

—親鸞の仏性観の独自性—

芝田 法之 法然から親鸞への展開

—特に生因願を中心に—

禿 了真 隆寛律師の浄土教思想

親鸞聖人の五念門観

—法然門下との対比を中心として—

馬場 正光 親鸞における往生

親鸞の疑心観の研究

—法然の疑心理解との比較を通して—

宮地 崇

仏教学

西 千賀子 ガンダラーラのいわゆるアトラス像について

野村 光佑 『観心略要集』の研究

藤原 智之 曇鸞浄土教の研究

岸田 悠里 中国涅槃变相図に関する研究

—金棺出現の場面を中心に—

酒見 暢 明秀光雲の浄土教学の研究

—『愚要鈔』を中心として—

藤川 夕貴 「虎を伴う行脚僧図」の研究

哲学

下坂 正洋 『善の研究』に於ける宗教とは何か

尾川 知

人間における魂と身体の合一

井木綾乃

大学生の被援助志向性に関わる研究

金田 匡平

―トマス・アクイナス『神学大全』の場合―  
アリストテレスの「海戦問題」をめぐる  
―「命題論」第九章における必然と真理―

井尻 雅之

大学生の自尊感情およびコーピング方略と睡眠の質との関連について

教育学専攻

(教育学領域)

那須 さとみ

がん患者サロンにおけるスピリチュアルケアの  
一考察

上 蘭 美 鈴

児童養護施設における心理的援助の有効性と心理職員の活動についての分析

戴 佳 玉

詰め込み教育について

坂 江 真 由 美

喪失体験における意味づけと成長に関する研究

陳 麗 莉

中国の私立高等日本語学校の発展と課題  
―日本と中国との比較―

塩 見 亮 輔

心理的ストレス反応に対するレジリエンス因子の効果  
―大学生のネガティブライフイベントに着目して―

任 苺

中国人の日本語学習者の異文化間コミュニケーション能力の養成  
―遼寧省を中心に―

白 石 明 子

ビハラー活動実践者におけるセルフケアについての一考察

李 皓 儀

日本と台湾における教科書の審査・採択制度の比較研究  
―小・中学校の場合―

田 中 萌 子

希死念慮及び自殺願望を抱く大学生への心理的援助

村 尾 聡

西郷文芸学の教育方法学的考察

中 島 陽 大

認知的再解釈と気ばらしの関連性について

(臨床心理学領域)

能 登 由 紀 恵

大学生における愛着スタイルと家族関係

大学生の親準備性について  
―親になることへの意識―  
心身症患者における過剰適応の心理的支援の可能性

国史学

長石正道

本願寺教団の朝鮮進出

— 明如期を中心に —

谷崎仁美

重孤紋軒平瓦の二大系統

日溪浩道

神道国教主義と明治憲法体制

藤井尚美

平安後期に見る皮膚病者と仏教

芦原義行

豊国大明神の盛衰

— 豊国社の運営実態並びに祭祀形態を中心に —

片岡 亮

近世京都五条近辺における賤民に関して

— 特に物吉と呼ばれた人々を中心に —

川崎一輝

行基の布教と民衆

川出康博

稻荷信仰の初源

— 稻荷信仰の根底にあるもの —

小林健太

本居宣長の思想形成とその展開

— 古道論を中心として —

鈴尾乃織

中世村落の出現とその展開

— 近江の湖東・湖南地域を中心に —

塚内雄介

元田永孚の儒教思想と明治国家における「保守主義」

— 奈良時代初期の村落

東田成弘

奈良時代初期の村落

中田克俊

明治一〇年代における「宮中派」の思想と行動

新居武尊

古代日本における山林観と仏教

— 山林修行の足跡を手掛かりに —

松野千夏

奈良朝写経の一考察

— 「花厳経為本」前後の動向をてがかりに —

八木原清登

明治・大正期におけるキリスト者柏木義円の思想

— 非戦論の展開と社会主義の受容をめぐる —

東洋史学

川股寛享

元朝初期における全真教団の活動について

木下瑛司

ウイグル語文書にみる経済活動の諸問題

木本在躬

戦国時代における秦の貨幣政策について

— 商鞅の改革と貨幣 —

後藤光保

陽明学と仏教

松田美香

北朝期の弥勒信仰

— 造像銘を中心に —

山口友佳莉

清初の満蒙婚姻関係

— 孝荘文皇后を中心に —

吉岡慈文

中国における阿育王塔の諸相

— 八萬四千塔伝説が中国に与えし影響 —

日本語日本文学

英語英米文学

略 星 吟 現代日本語の漢語系接辞の用法の分析

重田 耕平

—「大」「超」「系」「風」を例として—

田辺 翔平

栗谷川 未希 『女郎花物語』における『仮名列女伝』の享受

— について —

館 阿樹羅 鬼と隠れ蓑の関係性

馬 素璋

中谷 有希 明治期日本文学の疑問表現について

東山 美琴 『浜松中納言物語』における吉野

— その機能について —

李 华斌

牧野 香織 スペース・オペラの文体について

山田 瞳 会話表現のテキスト機能

— 再話テキストを素材として —

若林 友基 兼好の執筆姿勢

— 『徒然草』における登場人物の描写を通して —

趙 海燕 武田泰淳と中国

— 「戦争もの」を中心に —

亀井久美子 『源氏物語』の△終わり▽

— 「据ゑ」たい男の恋愛願望 —

William Burroughs as an Anti Novelist

Reason and Free Will: A Comparative

Study of George Orwell's Nineteen Eighty

Four and Yevgeny Zamiatin's We.

"Jane Austen's Views on Marriage in Pride

and Prejudice 『傲慢と偏見』におけるジエイ

ン・オースティンの結婚観"

"British Writers' Attitudes to Religion in

Their Works: The Representation of Their

Sense of Crisis"

二〇一三年度  
大学院 文学研究科 開講科目一覽

真宗学専攻

真宗学特殊研究	川添 泰信
真宗学特殊研究 A	那須 英勝
真宗学特殊研究 A	野村 仲夫
真宗学特殊研究 A	ヒロタ デニス
真宗学特殊研究 B	那須 英勝
真宗学特殊研究 B	野村 仲夫
真宗学特殊研究 B	ヒロタ デニス
真宗学特殊研究 A	内藤 知康
真宗学特殊研究 A	内藤 知康
真宗学特殊研究 B	内藤 知康
浄土教理史特殊研究 A	福原 隆善
浄土教理史特殊研究 B	福原 隆善
真宗学演習	内藤 知康
真宗学演習	那須 英勝
真宗学演習	鍋島 直樹
真宗学演習	林 智康
真宗学演習	ヒロタ デニス

仏教学専攻

真宗教学史演習	龍溪 章雄
真宗伝道学演習	深川 宣暢
浄土教理史演習	川添 泰信
真宗学文献研究 A	井上 善幸
真宗学文献研究 A	武田 晋
真宗学文献研究 A	殿内 恒
真宗学文献研究 A	ヒロタ デニス
真宗学文献研究 A	藤 能成
真宗学文献研究 B	井上 善幸
真宗学文献研究 B	武田 晋
真宗学文献研究 B	殿内 恒
真宗学文献研究 B	ヒロタ デニス
真宗学文献研究 B	藤 能成
伝道学特殊研究 B	鍋島 直樹
仏教学特殊研究	桂 紹隆
仏教学史特殊研究 A	藤丸 要
仏教学史特殊研究 B	藤丸 要
仏教学史特殊研究 A	宮治 昭
仏教学史特殊研究 B	宮治 昭
インド哲学特殊研究	桂 紹隆

インド哲学特殊研究 A	本多 至成	※学部と合同開講
インド哲学特殊研究 B	本多 至成	※学部と合同開講
インド哲学演習	若原 雄昭	
仏教学演習	淺田 正博	
仏教学演習	入澤 崇	
仏教学演習	楠 淳澄	
仏教学演習	能仁 正顕	
仏教学文献研究 (パ ー リ)	青原 令知	
仏教学文献研究 (パ ー リ)	青原 令知	
仏教学文献研究 (パ ー リ)	青原 令知	
仏教学文献研究 (サンスクリット)	谷 貞志	※学部と合同開講
仏教学文献研究 (漢 文)	長谷川 岳史	
仏教学文献研究 (漢 文)	長谷川 岳史	
仏教学文献研究 (チ ベ ッ ト)	三谷 真澄	
仏教学文献研究 (チ ベ ッ ト)	三谷 真澄	
仏教学文献研究 (漢 文)	道元 徹心	
仏教学文献研究 (漢 文)	道元 徹心	

哲学専攻

哲学特殊研究 II A	小林 道夫	
哲学特殊研究 II B	小林 道夫	
倫理学特殊研究 II A	丸山 徳次	※学部・大学院実践真宗学研究所と合同開講
倫理学特殊研究 II B	丸山 徳次	
倫理学特殊研究 II B	丸山 徳次	※学部と合同開講
宗教学特殊研究 I A	高田 信良	※学部と合同開講
宗教学特殊研究 I B	高田 信良	※学部と合同開講
哲学演習	丸山 徳次	
宗教学演習	高田 信良	
哲学文献研究 II A	小林 道夫	
哲学文献研究 II B	小林 道夫	

教育学専攻

教育哲学特殊研究 A	川村 覚昭	※学部と合同開講
教育哲学特殊研究 B	川村 覚昭	※学部と合同開講
宗教学特殊研究 A	海谷 則之	※学部と合同開講
宗教学特殊研究 B	海谷 則之	※学部と合同開講
教育学特殊研究 A	滝内 大三	※学部と合同開講
教育学特殊研究 B	滝内 大三	※学部と合同開講
教育行政学特殊研究 A	竺沙 知章	※学部と合同開講
教育行政学特殊研究 B	竺沙 知章	※学部と合同開講

生涯教育学特殊研究 A	林 美輝	※学部と合同開講	学校カウンセリング特殊研究	児玉 龍治	※教育学専攻のみ履修可
生涯教育学特殊研究 B	林 美輝	※学部と合同開講	心理教育アセスメント論	渡邊 静代	
異文化間教育学特殊研究 A	小島 勝	※学部と合同開講	心理教育アセスメント実習	渡邊 静代	
異文化間教育学特殊研究 B	小島 勝	※学部と合同開講			
学校経営学特殊研究 A	小島 弘道		臨床心理学専攻		
学校経営学特殊研究 B	小島 弘道		臨床心理学特論	東 豊	
教育学演習	滝内 大三		臨床心理面接特論	森田 喜治	
生涯教育学演習	林 美輝		臨床心理査定特論	吉川 悟	
異文化間教育学演習	小島 勝		臨床心理基礎実習	東 豊	
教育・発達心理学演習	小島 勝		臨床心理学実習	武田 俊信	
教育学文献研究 A	郷式 徹			吉川 悟	
教育学文献研究 B	小島 勝			滋野井一博	
発達心理学特論	志波 泰子	※文学部と合同開講		武田 俊信	
発達心理学特殊研究	志波 泰子	※文学部と合同開講		東 豊	
教育心理学特論	志波 泰子	※文学部と合同開講		友久 久雄	
障害者(児)心理学特殊研究	郷式 徹		心理療法特論	森田 喜治	
学校心理学特殊研究	郷式 徹		学校臨床心理学特論	森田 喜治	
学習心理学特殊研究	郷式 徹	※文学部と合同開講	臨床心理地域援助特論	内田 利広	
生徒指導・キャリア教育論	安達 智子		心理学研究法特論	吾勝 常行	
学校カウンセリング実習	吉川 悟	※教育学専攻のみ履修可	臨床心理学研究法特論	伊藤 正人	※学部と合同開講
臨床心理学特殊研究	森田 喜治	※教育学専攻のみ履修可	臨床心理学特殊研究	吉川 悟	
			人格心理学特論	森田 喜治	
			社会病理学特論	大塚 義孝	
				森下 高治	

家族心理学特論	赤津 玲子	臨床心理学演習 II	武田 俊信	※修士課程・博士後期課程
心理統計法特論	赤津 玲子	臨床心理学演習 II	友久 久雄	※修士課程
犯罪心理学特論	廣井 亮一	臨床心理学演習 II	東 豊	※修士課程・博士後期課程
グループアプローチ特論	児玉 龍治	臨床心理学演習 II	森田 喜治	※修士課程・博士後期課程
社会心理学特論	下村 陽一	臨床心理学演習 II	吉川 悟	※修士課程・博士後期課程
神経生理学特論	武田 俊信	臨床心理学特殊研究 I	武田 俊信	
心身医学特論	友久 久雄	臨床心理学特殊研究 I	東 豊	
認知心理学特論	東 豊	臨床心理学特殊研究 I	吉川 悟	
老年心理学特論	吉川 悟	臨床心理学特殊研究 II	武田 俊信	
障害者児心理学特論	滋野井一博	臨床心理学特殊研究 II	東 豊	
学校カウンセリング(実習)	吉川 悟	臨床心理学特殊研究 II	吉川 悟	
学校カウンセリング(実習)	児玉 龍治	臨床心理学特殊研究 II	吉川 悟	
臨床心理学文献研究	児玉 龍治	臨床心理学特殊研究 II	吉川 悟	
臨床心理学演習 I	吾勝 常行	古代史特殊研究 A	木本 好信	※文学部と合同開講
臨床心理学演習 I	滋野井一博	古代史特殊研究 B	木本 好信	※文学部と合同開講
臨床心理学演習 I	武田 俊信	中世史特殊研究 A	元木 泰雄	※文学部と合同開講
臨床心理学演習 I	友久 久雄	中世史特殊研究 B	元木 泰雄	※文学部と合同開講
臨床心理学演習 I	東 豊	近世史特殊研究 A	谷山 正道	※文学部と合同開講
臨床心理学演習 I	森田 喜治	近世史特殊研究 B	谷山 正道	※文学部と合同開講
臨床心理学演習 I	吉川 悟	近代史特殊研究 A	黒岩 康博	※文学部と合同開講
臨床心理学演習 II	吾勝 常行	近代史特殊研究 B	黒岩 康博	※文学部と合同開講
臨床心理学演習 II	滋野井一博	日本仏教史特殊研究 A	上島 享	※文学部と合同開講

国史学専攻・日本史学専攻

日本仏教史特殊研究 B	上島 享	※文学部と合同開講	日本史学文献研究	藤原 正信	※2012年度以降入学生対象
考古学特殊研究 A	國下多美樹	※文学部と合同開講	日本仏教史文献研究	前田 一郎	※文学部と合同開講
考古学特殊研究 B	國下多美樹	※文学部と合同開講	日本法制史特殊研究 A	嘉戸 一将	※文学部と合同開講
古代史演習	平林 章仁		日本法制史特殊研究 B	嘉戸 一将	※文学部と合同開講
中世史演習	吉田 賢司		美術史特殊研究 A	杉本 欣久	※文学部と合同開講
近世史演習	山本 浩樹		美術史特殊研究 B	杉本 欣久	※文学部と合同開講
近代史演習	藤原 正信		民俗学特殊研究 A	菊地 曉	※文学部と合同開講
日本仏教史演習(ア)	赤松 徹眞		民俗学特殊研究 B	菊地 曉	※文学部と合同開講
日本仏教史演習(イ)	中川 修		歴史地理学特殊研究 A	山田 誠	※文学部と合同開講
考古学演習	國下多美樹		歴史地理学特殊研究 B	山田 誠	※文学部と合同開講
国史学文献研究	松倉文比古	※2011年度以前入学生対象	文化財学特殊研究 A	梶谷 亮治	※文学部と合同開講
国史学文献研究	吉田 賢司	※2011年度以前入学生対象	文化財学特殊研究 B	梶谷 亮治	※文学部と合同開講
国史学文献研究	山本 浩樹	※2011年度以前入学生対象	東洋史学専攻		
国史学文献研究	藤原 正信	※2011年度以前入学生対象	東洋古代史特殊研究 A	小南 一郎	
国史学文献研究	松倉文比古	※2012年度以降入学生対象	東洋古代史特殊研究 A	田中 俊明	※文学部と合同開講
日本史学文献研究	吉田 賢司	※2012年度以降入学生対象	東洋古代史特殊研究 B	小南 一郎	
日本史学文献研究	山本 浩樹	※2012年度以降入学生対象	東洋中世史特殊研究 A	田中 俊明	※文学部と合同開講
			東洋中世史特殊研究 B	杉山 正明	※文学部と合同開講
			東洋中世史特殊研究 A	富谷 至	※文学部と合同開講
			東洋中世史特殊研究 A	濱田 正美	



情報出版学特殊研究 B

和田 恭幸

英語英米文学専攻

日本語学特殊研究 A

藤井 俊博

英文学特殊研究 A

山崎 弘行

※文学部と合同開講

日本語学特殊研究 B

藤井 俊博

英文学特殊研究 A

ライクロフト  
D・W

中国文学特殊研究 A

青山由起子

英文学特殊研究 B

山崎 弘行

※文学部と合同開講

中国文学特殊研究 B

青山山起子

英文学特殊研究 B

ライクロフト  
D・W

古典文学演習

安藤 徹

米文学特殊研究 A

中川 法城

近代文学演習

大取 一馬

米文学特殊研究 B

中川 法城

情報出版学演習

越前谷 宏

英語学特殊研究 A

菅山 謙正

日本語学演習

日下 幸男

英語学特殊研究 B

菅山 謙正

古典文学文献研究 A

藤田 保幸

英語学特殊研究 B

菅山 謙正

古典文学文献研究 A

安藤 徹

英語学演習

東森 勲

古典文学文献研究 B

安藤 徹

英文学演習

福本 宰之

古典文学文献研究 A

安藤 徹

英文学演習

山崎 弘行

近代文学文献研究 A

安井 重雄

米文学演習

藤本 雅樹

近代文学文献研究 B

越前谷 宏

英米文化演習

ラザリン・  
マイケル

情報出版学文献研究 A

越前谷 宏

英米文学文献研究 A

荒木 映子

情報出版学文献研究 B

天野 文雄

英米文学文献研究 B

荒木 映子

日本語学文献研究 A

余田 弘実

英米文学文献研究 A

清水 一夫

日本語学文献研究 B

余田 弘実

英米文学文献研究 B

清水 一夫

日本語学文献研究 A

余田 弘実

英米文化文献研究 A

ドゥーギル  
ジョン・E

英米文化文献研究 B	ドゥーギル ジョン・E
英語学文献研究 A	内田 聖二
英語学文献研究 B	内田 聖二
言語情報処理特殊研究 A	東森 勲
言語情報処理特殊研究 B	東森 勲
西洋美術史特殊研究 A	上倉 庸敬
西洋美術史特殊研究 B	上倉 庸敬
東方古典翻訳特殊研究 A	石田 法雄
東方古典翻訳特殊研究 B	石田 法雄

二〇二二年度後期～二〇二三年度前期 文学研究科院生の研究活動

真宗学専攻

○真宗研究会

《修士論文中間発表》

日程 二〇二二年一〇月三〇日(火)・十一月八日(木)

於 龍谷大学大宮学舎清和館三階大ホール

【第一日目】

- ・横超断四流釈の利益の位置づけ  
— 現当二益を通しての見解—
  - ・真宗伝道の方法論的考察
  - ・浄土真宗における伝道とその展開
  - ・沖繩における浄土真宗の伝道
  - ・真宗伝道の現代的意義
- 【第二日目】
- ・懐感浄土教の研究  
— 善導浄土教と比較して—
  - ・隆寛浄土教の研究
  - ・小兒往生について

- 小野真世 (M2)
- 正親智隆 (M2)
- 奥田桂寛 (M2)
- 河村信弥 (M2)
- 北小路清道 (M2)
- 榎屋達也 (M2)
- 禿 了真 (M2)
- 東光真法香 (M3)

・「唯信鈔文意」における親鸞の第十七願観

— 「唯信鈔」と比較して—

・親鸞における信仰的実存の意義

・真宗仏性義再考

— 親鸞における仏性観の独自性—

・法然門下の本願観

・親鸞と隆寛

— 特に三心観について—

・明遍教学の研究

・親鸞における往生

・「浄土三経往生文類」の研究

・「往生浄土」について

- 岩田 香 (M2)
- 鹿島 涼 (M2)
- 河邊大文 (M2)
- 芝田法之 (M2)
- 中村恵明 (M2)
- 西村慶哉 (M2)
- 馬場正光 (M2)
- 小笠原覚順 (M2)
- 塚原義明 (M2)

《例会》

【二〇二二年度】

日程 二〇二二年二月二十八日(火)

於 龍谷大学大宮学舎清和館三階大ホール

講師 殿内 恒(本学教授)

演題 真宗文献を考える ― 教学の基盤として―

【二〇一三年度】

日程 二〇一三年七月九日(火)

於 龍谷大学大宮学舎清和館三階大ホール

講師 満井秀城(浄土真宗本願寺派総合研究所 教学伝道研究室長)

演題 浄土真宗と葬送儀礼

○学会発表

《龍谷大学真宗学会第六六回大会》

日程 二〇一二年一月六日(火)

於 龍谷大学大宮学舎清和館三階大ホール

・親鸞の『論語』引用について

菊川一道(D2)

・『教行信証』所引の『讚阿弥陀仏偈』について

富島信海(D2)

・存覚における父母に対する報恩思想

― 『報恩記』を中心として―

谷口智子(D3)

・『念仏鏡』の一考察

― 善導教学との関連を中心に―

山崎真純(D3)

《第十六回国際真宗学会学術大会(IASBS)》

日程 二〇一三年五月三十一日(金)・六月一日(土)・二日(日)

於 University of British Columbia, Vancouver, Canada

(ブリテュッシュ・コロンビア大学)

・ Significance of the Amida Tathagata's Name in Shin Buddhism

― From the view of human beings to be saved―

(和訳・真宗教義における阿弥陀如来名号の意義について

― 被救済者としての機の立場から―)

藤原ワンドラ睦(D2)

《龍谷学会議第四九回大会》

日程 二〇一三年六月四日(火)・五日(水)

於 龍谷大学大宮学舎清和館三階大ホール

・『化身土文類』末巻における『華嚴経』引文の意義

武末直也(D3)

《日本印度学仏教学会第六四回学術大会》

日程 二〇一三年八月三十一日(土)・九月一日(日)

於 島根県民会館

・親鸞における諸行廃捨の構造

― 『廃立』の語を用いない理由について― 四夷法顕(D3)

・西本願寺本『教行信証』における註記の特徴について

― 坂東本との比較から― 富島信海(D3)

・親鸞の年代における表現変遷の理由 玉木興隆(D2)

・島地大等の神道観 川元恵史(D3)

《日本宗教学会第七二回学術大会》

日程 二〇一三年九月六日(金)・七日(土)・八日(日)

於 國學院大学渋谷キャンパス

・親鸞における「絶対」の語義

— 天台所説「絶対」の語をめぐって— 四夷法顯 (D3)

・親鸞における衆生利益に関して 杉田 了 (D3)

・「獲信見敬大慶喜」部分の推敲について 玉木興隆 (D2)

・親鸞における宿業観の一考察 長宗博之 (D2)

・「見聞集」に関する一考察 西河 唯 (D2)

— 「般舟讚」抄出文について— 藤原ワンドラ睦 (D2)

・ハワイ真宗念仏者マツダ・ハルの機の立場

・浄土真宗における信仰と社会实践(パネル発表)

菊川一道 (D3)

### 仏教学専攻

#### 《修士論文中間発表会》

日程 平成二十四年十月二十四日(水)

於 龍谷大学大宮学舎東翼二〇四教室

・「観心略要集」の研究 野村光佑 (M3)

・明恵上人高弁における真言の導入についての検討 三輪亮介 (M2)

・曇鸞浄土教の研究 藤原智之 (M2)

・明秀光雲の浄土教学の研究

— 「愚要鈔」を中心として— 酒見 暢 (M2)

日程 平成二十四年十月二十五日(木)

於 龍谷大学大宮学舎東翼二〇五教室

・中国唐・宋代の涅槃変相図に関する研究

— 金棺出現の場面を中心に— 岸田悠里 (M2)

・「虎を伴う行脚僧図」の研究 藤川夕貴 (M2)

・ミヤンマー仏伝図研究

— 「出家決意」の場面を中心として— ティンマーウー (M2)

#### 《平成二十四年度 龍谷仏教学会学術研究発表会》

日程 平成二十五年一月十六日(水)

於 龍谷大学大宮学舎西翼二階大会議室

・「勝鬘經疏義私鈔」と天台教義の一致 吉田慈順 (D3)

— 島地大等説への批判—

・薬健度記事の古層と新層 井上綾瀬 (研究生)

— 飢饉の記事を中心に—

・《阿弥陀經》の成立時期について 壬生泰紀 (D2)

— 阿弥陀仏の寿命を手掛かりとして— 西山 亮 (研究生)

・アビダルマの二諦説

・ 瑜伽行唯識学派における二諦説解釈の変遷 早島 慧 (D3)

・ 『大乘莊嚴經論』第XI章における

幻の譬喩と三性説との関係性について 間中 充 (D1)

・ 『菩薩地』の「百四十不共佛法」を敷衍して

『大乘莊嚴經論』が「仏の功德」を組織する際に

(18) 〈十八不共功德〉と (20) 〈六波羅蜜の完成〉を

新たに追加したのはなぜか 上野隆平 (研究生)

〈二〇二二年度 第八回 BARCユニット2研究会 「チベットの

歴史と仏教」

日程 平成二十五年一月二十四日(木)

於 龍谷大学大宮学舎西餐二階大会議室

・ チベット伝承における龍樹と唯識派 早島 慧 (D3)

・ あるチベット人の詠んだサンスクリット詩 西山 亮 (研究生)

〈龍谷大学仏教文化研究所研究談話会 特別指定研究 ヒロタ・テニ

スグループ〉

日程 平成二十五年二月二十七日(水)

於 龍谷大学大宮学舎西餐二階大会議室

・ 真言密教思想の英訳問題

― 「即身成仏」を中心に―

亀山隆彦 (研究生)

〈龍谷教学会議 第四十九回大会〉

日程 平成二十五年六月四日(火)

於 龍谷大学大宮学舎清和館三階ホール

・ インド大乘仏教瑜伽行派の未了議の一乗説

― 『大乘莊嚴經論』第XI章第53-59偈に関する一考察―

上野隆平 (研究生)

〈二〇二三年度卒業論文の書き方説明会〉

日程 平成二十五年六月二十七日(木)

於 龍谷大学大宮学舎東餐一〇四教室

・ 卒業論文をどう書くか

・ 資料収集と保存方法

・ 卒論執筆に関する注意事項

打本和音 (D2)

岸田悠里 (D1)

金谷博美 (D2)

〈香港慈氏学会 第一屆慈宗國際學術論壇〉

日程 平成二十五年八月二十五日(日)

・ 唐代法相唯識学派的佛性説

― 以基、円測与慧沼為中心―

於 香港理工大学

李 子捷 (M2)

〈日本印度学仏教学会 第六十四回學術大会〉

日程 平成二十五年八月三十一日(土)

・ 清弁から見た『俱舍論』の二諦説

於 島根県民会館

西山 亮 (研究生)

・『大阿弥陀経』の構造について

―〈阿弥陀経〉の構造との比較を手掛かりとして―

壬生泰紀 (D3)

日程 平成二十五年九月一日(日)

於 鳥根県民会館

・『大乘莊嚴経論』第Ⅺ章における

幻譬と三性説との関係性について

間中 充 (D2)

・『大乘莊嚴経論』「求法品」の一乗 (ekayānata) 説

上野隆平 (研究生)

・『Lankāvatāra-sūtra』(楞伽経)の二種如来蔵説

―敦煌写本 P.3751と日本唯識文献中の佚文を中心として―

李 子捷 (M2)

## 哲学専攻

### 〈『実践理性批判』研究会〉

毎週水曜日 十三時

カント『実践理性批判』を精読する。各自で要約してきた内容を、テキストを読み進めながら批判的に検討していく。原書・翻訳を参照する。

場所・哲学合同研究室

テキスト・カント『実践理性批判』宇都宮芳明〔訳〕 以文社

二〇〇四年

### 〈カント研究会〉

毎週金曜日 十三時

カントに関する章を読み進め、『純粹理性批判』について理解を深める。各自要約を考えてきた上で、疑問点を解消しながら進めていく。原書・翻訳を参照する。

場所・哲学合同研究室

テキスト・E・カッシーラ『認識問題』須田朗・宮武昭・村岡

晋一〔訳〕 みすず書房

## 教育学専攻

### 〈関西教育学会第六十四回大会〉

日程 二〇一二年十一月十日(土)

会場 奈良女子大学

・経済審議会「国民所得倍増計画」が求めていた能力主義

―人的能力部会議事録より― 吉良 仁美 (D3)

### 〈教育学会第八回研究大会〉

日程 二〇一二年十二月一日(土)

会場 龍谷大学大宮学舎 南費二〇三教室

・詰め込み教育について

―日本と中国との比較― 戴 佳玉 (M2)

・中国の私立学校の発展と課題

―丹東市日本語専門学校を中心に― 陳 麗莉 (M2)

・中国人の日本語学習者のコミュニケーション能力の養成の重要性  
任 芄 (M2)

・日本と台湾における教科書の審査・採択制度の比較研究

―小・中学校の場合―  
李 皓儀 (M2)

・西郷文芸学の教育学的考察  
村尾 聡 (M2)

・がんサロンへの参加に至るサバイバーの体験  
那須さとみ (M2)

『龍谷大学教育学会紀要』

第十二号 龍谷大学教育学会 二〇一三年三月

・研究論文 日本における新中間層の「教育戦略」と母親の役割

―先行研究を手がかりとして―  
武田 猪久生 (D5)

・研究報告 経済界が求めた人的能力主義

―「国民所得倍増計画」と「人的能力部会」を中心に―  
吉良 仁美 (D3)

『関西教育学会年報』

第三十七号 関西教育学会 二〇一三年六月

・経済審議会「国民所得倍増計画」が求めていた能力主義

―人的能力部会議事録より―  
吉良 仁美 (D3)

〈二〇一三年度 教育学会研究発表大会（前期）〉

日程 二〇一三年七月二十七日（土）

会場 龍谷大学大宮学舎 北覺二〇二教室

・留学生の就職支援のあり方について  
郭 静 (D3)

・中国の日本語教材と日本文化  
劉 坤 (M2)

・日本における新中間層の「教育戦略」  
―「文化的再生産論」の視点から―  
武田 猪久生 (D6)

・地域における子育て支援に関する研究

―スタッフの力量、専門性に着目して―  
宮本 康寿 (研究生)

・一九六〇年代の教育政策と経済界が要求していた教育政策概念との乖離について  
吉良 仁美 (研究生)

―経済界が求めた能力主義―

臨床心理学専攻

【二〇一三年度後期】

『日本心理臨床学会第三二回大会発表論文集』二〇一三年九月

p.406

「保育士の保育観」

滋野井一博 (教授) 小正浩徳 (教授) 赤田太郎 (教授)

伊東秀章 (研究生) 友久久雄 (教授)

〈日本宗教学会第七一回学術大会〉

日程 二〇一二年九月九日

「『ピハール活動と日本人の宗教性』 伊東秀章 (研究生)

於 皇學館大学

〈第五三回日本児童青年精神医学会総会〉

日程 二〇二二年一〇月二日～二〇二二年一月二日

於 都市センターホテル

「発達障害のある児童への予防的介入」 沖原千菜美 (D1)

〈日本教育心理学会第五四回総会〉

日程 二〇二二年一月二三日～二五日

於 琉球大学千原キャンパス

「学級における機能的相互作用に関する一考察―予防的コンサルテーションの構築に向けて―」 沖原千菜美 (D1)

〈日本プライマリ・ケア連合学会 第二六回近畿地方会〉

日程 二〇二二年一月二五日

於 京都テレサ

「歯科治療恐怖症に鎮静法を用いた安全・快適診療―クオリティと連携の向上を求めて―」 廣瀬俊司 (D1)

〈第二八回 日本ストレス学会学術総会〉

日程 二〇二二年一月三〇日

於 札幌市会議・研修施設 ACU

「児童養護施設入所児童の職員に対する自己開示と問題行動との関連についての予備的検討」

塩見亮輔 (M2) 武田俊信 (教授)

〈二〇二二年度研究大会〉

日程 一月二十六日

於 龍谷大学大宮学舎 清和館三階

・「大学生の自尊心およびコーピング方略と睡眠の質との関連について」 井尻雅之 (M2)

・「大学生の親準備性について―親になることへの意識―」 馬場千明 (M2)

・「大学生の被援助志向性に関わる研究」 井木綾乃 (M2)

・「希死念慮及び自殺念慮を抱く大学生への心理的援助」 田中萌子 (M2)

・「認知再解釈と気ばらしの関連性について」 中島陽大 (M2)

・「心理的ストレス反応に対するレジリエンス因子の効果―大学生のネガティブイベントに着目して―」 塩見亮輔 (M2)

・「児童養護施設における心理的援助の有効性と心理職員の活動性についての分析」 上蘭美鈴 (M2)

・「ビハラー活動実践者におけるセルフケアについての一考察」 白石明子 (M2)

・「心身症患者における過剰適応の心理的支援の可能性」 若槻優美子 (M2)

・「喪失体験における意味づけと成長に関する研究」 坂真由美 (M2)

・「プラキシズムから顎口腔系を護る―プラキシズムにスプリント療法は有効か―」 廣瀬俊司 (D1)

・「治療は有効か」

・「治療は有効か」

・「治療は有効か」

・「治療は有効か」

・「治療は有効か」

〈第五三回 日本心身医学学会近畿地方会〉

日程 二〇一三年二月二日 於 国立病院機構大阪医療センター  
「心身症患者における過剰適応の心理的支援の可能性」

若槻優美子 (M2) 吉川悟 (教授)

〈第二五回京都府歯科医学大会〉

日程 二〇一三年二月一七日 於 京都府歯科医師会館

「ブラキシズムの文献レビュー」 廣瀬俊司 (D2)

【二〇一三年度前期】

『龍谷大学臨床心理学会紀要第1号』

・「ビハーラカウンセリングにおける生死の応答ービハーラ活動

研修生と大学生における調査からー」 pp.1-17

伊東秀章 (研究生) 友久久雄 (教授)

・「性役割観と夫婦関係満足度との関連」 pp.33-53

狩野真理 (D2)

〈日本歯科心身医学会〉

日程 二〇一三年七月一三ー一四日 於 福岡県歯科医師会館

「質問紙法ストレス・チェックーブラキシズムとストレスの関係

を明らかにするためにー」 廣瀬 俊司 (D2)

〈二〇一三年度中間研究発表会〉

日程 七月二十六日 於 龍谷大学大宮学舎清風館B101教室

・「特別養護老人ホームにおける介護職員の死生観について」

武藤有佑 (M2)

・「青年期の実存的不安と通過儀礼ーエピソードと母子関係との  
関連ー」 鈴木絹世 (M2)

・「治療関係を評価する

ーシステムズアプローチの視点からの一考察」

田中智之 (M2)

・「対人関係におけるコミュニケーション・スキルと欺瞞性認知  
の関連性についてー異性間における欺瞞的コミュニケーション  
ン場面に着目してー」 小田理未 (M2)

・「日本版新個人的神話尺度 (The New Personal Fable  
Scale: NPPFS) の信頼性と妥当性の検討及び日本版 NPPFS  
と主観的幸福感の関係」 室屋賢士 (M2)

・「大学生が認知する親との関連性と心理的健康に関する研究」

張田ようこ (M2)

・「青年期における現実自己が抱く劣等感についてー理想自己と  
他者比較の観点からー」 川合綾香 (M2)

〈第四回表現性心理療法国際学術研究会〉

日程 二〇一三年八月四日 於 中華人民共和国 蘇州

「認知症高齢者のこころと体の関連ー人物画を通じたこころの理

解と心理的支援ー」 劉 仁 (D1)

『日本心理臨床学会第三二回大会発表論文集』二〇一三年八月  
p.606

「子どもの支援における親の役割についてー父親の視点ー」

滋野井一博 (教授) 小正浩徳 (教授) 赤田太郎 (教授)

伊東秀章 (研究生) 友久久雄 (教授)

〈第三二回日本心理臨床学会 秋季大会〉

日程 二〇一三年八月二十五日〜二十八日 於 パシフィコ横浜

・「非専門家に対するカウンセリング実習の効果II―話を「聞かない」ロールプレイを通して―」

滋野井一博 (教授) 小正浩徳 (教授) 赤田太郎 (教授)

伊東秀章 (研究生) 友久久雄 (教授)

・「青年期における劣等感について―他者比較と理想自己―」

川合綾香 (M2) 滋野井一博 (教授)

〈仏教看護・ビハラー学会第九回年次大会〉

日程 二〇一三年八月二十五日 於 皇學館大学

「ビハラー活動研修生と大学生における生死の問題(2)」

伊東秀章 (研究生) 友久久雄 (教授)

〈第三二回日本ブリーフサイコセラピー学会〉

日程 二〇一三年八月三〇日〜九月一日 於 駒沢大学

・「WISC-IVの行動観察から得られた情報を活用した事例―「大きな音が怖い」と訴える子どもの母親との面接―」

狩野真理 (D2) 東 豊 (教授)

・「不登校を主訴に來談した母子の面接過程―祖母の入院をきっかけに変化した家族システムに注目して―」

梅野智美 (D1) 室屋賢士 (M2) 東 豊 (教授)

〈日本宗教学会第七二回学術大会〉

日程 二〇一三年九月八日 於 國學院大学

「心理学からみた浄土真宗のソーシャル・キャピタル」

伊東秀章 (研究生)

国史学専攻・日本史学専攻

〔二〇一二年度後期〕

□ 史跡調査

・ 日時：二〇一二年十一月二十五日(土) 午前十一時半から

・ 場所：金戒光明寺・永觀堂・南禅寺

※事前調査は実行したが、諸般の事情により中止。

□ 研究発表会 例会 〈於 日本史学合同研究室〉

第十一回 十月三日 川崎一輝 (仏教史 M2)

「行基の布教と民衆についての一考察」

第十二回 十月十日 片岡亮 (近世史 M2)

「近世京都の物吉に関する一考察」

第十三回 十月三十一日 河上まどか (近現代史 M1)

「社会科成立過程の中の「国史」の存続」

第十四回 十一月七日 三亀由季 (中世史 M1)

「禪宗寺院における塔頭―大徳寺を中心として―」

第十五回 十一月二日 児玉祥吾 (近世史 M1)

「政治的側面から見る貞享の改暦」

第十六回 十二月五日 渡邊慶一郎（中世史 M1）

「戦国末期における琵琶湖の在地領主と織田信長」

□研究会・輪読会

■古代史輪読会

〈於 日本史学合同研究室〉

【顧問：平林章仁（本学文学部教授）、代表：造酒豊（D3）】

古代史輪読会では、院生を中心に、学部生を含めて、古代史研究の基本史料の輪読を進めている。本年度は「類聚三代格」と「小右記」を取り扱う。史料の読み方や内容を検討し、その中に含まれている問題点やその史料の持つ歴史の意味などをめぐって、云いたいことを云い合う。つまりは、ひとつの史料をネタにして如何に遊ぶか。これが輪読会の目標である。

具体的日程は、その都合協議により決めているが、凡そ次のようである。

①「類聚三代格」：毎月第一土曜日か日曜日。午後四時から。日

本史合研にて。

史料：国史大系「類聚三代格」

②「小右記」：毎月第三土曜日か日曜日。午後四時から。日本史合研にて。

史料：大日本古記録「小右記」

■中世史研究会 毎月第二火曜日三講義時

〈於 日本史学合同研究室〉

【担当：岸田裕之（本学文学部教授）】

テキスト：『天正記』（戦国期毛利氏史料撰）マツノ書店 一九八七年 所収）

テキストの各年月日の簡条ごとに担当者を決め、対象の条の解釈、関連事項を調べて報告する。

参考図書として「毛利輝元備伝」「萩藩閥閥録」等を利用し、同時期の毛利輝元周辺の動きも把握し、また、豊臣政権下近世への移行にも関心を広げる。

京都並びに京都周辺の史蹟地に赴き地域史像・時代史像を考える臨地見学会も行っている。

■近世史史料輪読会 毎週金曜日十七時から

〈於 日本史学合同研究室〉

【担当：小林健太（M2）】

・テキスト：荻生徂徠『政談』（研究会で用意する）

・「政談」は八代將軍徳川吉宗に献上した書として知られている。今年度は本書を輪読し、近世史料の習熟をはかる。それに加えて、社会的・思想的背景を考察したい。

なお、学部生を対象に行うので積極的に参加していただきたい。研究発表・卒論等の相談も適宜行う。

■近現代史研究会 隔週火曜日四講時〈於 日本史学合同研究室〉

【担当…八木原清登（M2）】

主に近現代を対象とした研究論文の輪読を中心として進めていく。

論説や使用されている史料の読解を通じて、各自の研究テーマのみならず、近現代史の広範な知識を得ることを目的とする。

今年度は藤田省三「天皇制国家の支配原理」（みすず書房、二〇一一）をテキストとして使用している。

■古文書研究会 月曜日五講義時 〈於 日本史学合同研究室〉

【担当…高山嘉明（本学非常勤講師）】

テキスト…随時古文書のコピーを配布する。

中世から近世にかけての古文書を扱い、まずくずし字の解読を行なって内容を理解し、それぞれの古文書が持っている時代性や特徴を探る。

■「天正記」を読む会 第一・第三火曜日三講義時

〈於 大宮図書館四階学習室〉

【幹事…芦原義行（M2）】

本会では、国立公文書館所蔵の古活字版「天正記」をテキストとして輪読会を行っている。「天正記」は豊臣秀吉の御伽衆大村由己が著した一群の記録であるが、本書を丹念に読み解くことに

よって、これまで知られなかった豊臣時代の姿が浮かび上がってくる可能性もある。進め方は、事前にテキストを配布し発表担当者を決めて輪読する。

■考古学勉強会 〈於 大宮学舎東費二階 考古学研究室〉

・毎週金曜日六講義時（十八時二十五分）

【担当…國下多美樹（本学文学部教授）】

「レンフルーの考古学を読む」

レンフルーの論文（訳文）を用いる。

・毎月第二・第四木曜日 【担当…新平直彦（M2）】

「考古学的視点から見た各時代―基礎資料を読む」

研究室所属のメンバーが各時代の考古学の研究方法について解説を行う。

□『龍谷日本史研究』第三六号（二〇一三年三月発行）

【二〇一三年度前期】

□二〇一三年度総会

・日時…二〇一三年六月二十一日（金） 十三時十五分

・場所…龍谷大学大宮学舎 清和館三階

・記念講演（龍谷学会協賛）…谷山正道 先生（天理大学教授）

本学非常勤講師)

「近世後期の広域訴願と郡中議定」

□研究発表会 例会

〈於 日本史学合同研究室〉

・第一回 四月十七日

奥本裕希 (近世史 M2)

「郡上藩宝曆騒動と田沼意次」

・第二回 五月一日

花熊祐基 (考古学 M1)

「古墳時代後期における埴輪生産—三島地域を中心に—」

・第三回 五月十五日

吉田恵美 (古代史 M1)

「小野篁冥官説話形成の背景について」

・第四回 五月二十九日

下石敬太郎 (中世史 M1)

「平安前期の軍事官僚」

・第五回 六月二十六日

栗山寛 (近現代史 M1)

「帝国主義形成期における仏教徒—新仏教徒同志会の歴史的

立場—」

・第六回 七月十日

宮前智貴 (近世史 M2)

「近世初期の海民と全国的な海上活動—紀州海民の東国出漁  
を中心に—」

□研究会・輪読会

■古代史輪読会

〈於 日本史学合同研究室〉

【顧問】平林 章仁 (本学文学部教授)、代表：造酒豊 (D4)

古代史輪読会では、院生を中心に、学部生を含めて、古代史研究の基本史料の輪読を進めている。本年度は「類聚三代格」と「風土記」を取り扱う。史料の読み方や内容を検討し、その中に含ま

れている問題点やその史料の持つ歴史の意味などをめぐって、云  
いたいことを云い合う。つまりは、ひとつの史料をネタにして如  
何に遊ぶか。これが輪読会の目標である。

具体的日程は、その都度合議により決めているが、凡そ次のよう  
である。

【類聚三代格】…毎月第二土曜日。午後四時から。

史料：国史大系「類聚三代格」

【風土記】…毎月第四日曜日。午後四時から。

史料：日本古典文学大系「風土記」

■中世史研究会 毎月第二火曜日 第三講時

〈於 日本史学合同研究室〉

【担当】渡邊慶一郎 (M2)

テキスト：「細川両家記」(新校 群書類従) 名著普及会、一

九七七年)

室町時代後期、細川京兆家の家督争いから、織田信長と三好三人  
衆との争いまで、十六世紀の畿内における戦乱を見ていく。

毎月、発表者を決め、解釈や時代背景等を報告する。

報告を聞くだけでもよいので、学部生の積極的な参加を待ちしている。

■近世史料輪読会 毎月第二・第四金曜日 午後五時から

〈於 日本史学合同研究室〉

【顧問】山本浩樹（本学文学部准教授）、担当…小林健太（D1）  
テキスト…林子平『海国兵談』（研究会で用意する）

本年度は『海国兵談』を輪読し、近世史料の習熟をはかる。あわせて社会的・思想的背景も考察する。

なお、学部生を対象として行うので、積極的に参加していただきたい。卒論等の相談も随時行う。

■近現代史研究会 隔週火曜日 第四講時

〈於 日本史学合同研究室〉

【担当】八木原清登（D1）

本研究会では研究論文あるいは史料の輪読を行う。

その目的は、論文あるいは史料の輪読を通じて、近現代史を扱う上で必要な知識を得ることにある。

テキストは丸山眞男、藤田省三など、日本近現代史における主要研究者の著作物を用いる。具体的には丸山眞男『現代政治の思想と行動』（未来社、一九六四年）や藤田省三『天皇制国家の支配原理』（みすず書房、二〇二二年）を考えている。

■「天正記」を読む会 毎月第一・第三水曜日 第三講時

〈於 大宮図書館四階学習室〉

【幹事】三亀由季（M2）

本会では、国立公文書館所蔵の古活字版「天正記」をテキストとして輪読会を行っている。「天正記」は豊臣秀吉の御伽衆大村由己が著した一群の記録であるが、本書を丹念に読み解くことによって、これまで知られなかった豊臣時代の姿が浮かび上がってくる可能性もある。進め方は、事前にテキストを配布し発表担当者を決めて輪読する。

■考古学勉強会

〈於 大宮学舎東翼二階 考古学研究室〉

【担当】國下多美樹（本学文学部教授）

各週金曜日六講義時（十八時二十五分）「レンフルーの考古学を読む」

レンフルーの論文（訳文）を用いる。

【担当】熊井亮介（M2）

各週金曜日六講義時（十八時二十五分）「京都・周山地域の歴史を学ぶ」

京都市右京区京北町周山に関する歴史・遺跡の勉強会を、夏季の調査に備えて行う。

□講演会「卒業論文執筆に向けて」

・日時：二〇一三年七月十二日

・場所：龍谷大学大宮学舎 東齋一〇四教室

・報告者：

「テーマ設定について」

奥本裕希（近世史 M2）

「先行研究の整理について」

吉田恵美（古代史 M1）

「史料収集について―私の卒業論文執筆の経験から―」

下石敬太郎（中世史 M1）

「卒業論文執筆における史料の種類と扱い方」

栗山寛（近現代史 M1）

「考古資料の取り扱いとその注意点」

花熊祐基（考古学 M1）

## 東洋史学専攻

―彙報「二〇一二年後期～二〇一三年前期」

○卒業論文書き方講座

日時 二〇一二年十一月八日(木) 午後三時三十分～

於 大宮学舎北齋202教室

講師 村岡倫先生（本学文学部教授）

○学部生研究発表例会

於 大宮学舎西齋2階東洋史学合同研究室

第一回 二〇一二年十一月十二日(月) 十七時～

発表者：道場早織さん（四回生・都築ゼミ）

「孫呉政権における君主と知識人の関係」

第二回 二〇一二年十一月十三日(火) 十七時～

発表者：阪井裕士さん（四回生・木田ゼミ）

「国民政府とトラウトマン協定」

第三回 二〇一二年十一月十五日(木) 十七時～

発表者：小池翔平さん（四回生・木田ゼミ）

「年羹堯断罪について」

河合圭祐さん（四回生・都築ゼミ）

「後漢末の荊州学について」

○第三十六回研究大会

日時 二〇一二年十二月九日(金) 午後一時十五分～

於 大宮学舎清和館3階ホール

【研究発表】

木本在躬（本学修士課程）「戦国秦の貨幣政策について」

山根弓果（本学博士後期課程）「遠代後期における人民救済」

松野美貴（本学博士後期課程）「南宋初期の流寓試について」

谷口 綾 (本学博士後期課程) 「金元時代における儒医の展開」

【文学部特別講義】

井上裕正先生 (奈良女子大学教授)

「アヘン戦争と『海国図志』」

※研究大会終了後、大宮学舎清和館一階生協食堂にて懇親会を開催

○ 第三十七回総会

日時 二〇一三年六月七日(木) 午後一時三十分

於 龍谷大学大宮学舎 清和館3階ホール

【記念講演】

東潮先生 (徳島大学名誉教授)

「魏志東夷伝の考古学」

日本語日本文学専攻

《二〇一二年度日本語日本文学専攻 合同発表会》

日程 二〇一二年九月十三日(木)

於 龍大大宮学舎 南饗二〇四教室

・『源氏物語』の〈終わり〉の方法

・『浜松中納言物語』における吉野

―その機能について―

・鬼と隠れ蓑の関係性

亀井久美子 (M2)

東山美琴 (M2)

館阿樹羅 (M2)

・『女郎花物語』における『仮名列女伝』の撰取について

栗谷川未希 (M2)

・明治期文語文の疑問表現について

・スペース・オペラの文体について

―文末表現「ダ」・「デアル」を中心に―

・会話文のテキスト機能

―再話テキストを素材として―

《文藝談話会 第二十八回例会》

日程 二〇一二年十二月十六日(日)

於 龍谷大学大宮学舎

・定家の「野外柳」詠をめぐって

溝端悠朗 (M1)

《文藝談話会 第三〇回例会》

日程 二〇一三年四月十四日(日)

於 龍谷大学大宮学舎

・定家の「野外柳」の歌をめぐって

―定家の作意と後鳥羽院の解釈―

溝端悠朗 (M2)

《文藝談話会 第三一回例会》

日程 二〇一三年七月七日(日)

於 龍谷大学大宮学舎

南饗一〇五教室

・新古今当代歌人の星の和歌について

檜垣駿 (M1)

英語英米文学専攻

二〇二二年度 (後期)

《和歌文学会 第一一回関西例会》

日程 二〇二三年四月十四日(日)

於 龍谷大学大宮学舎 東餐一〇三教室

・定家の「野外柳」の歌をめぐる

― 定家の作意と後鳥羽院の解釈 ―

溝端悠朗 (M2)

《二〇二二年度日本語日本文学専攻 プレ合同発表会》

日程 二〇二三年八月一〇日(土)

於 龍大大宮学舎 北餐二〇三教室

・後鳥羽院と定家の対立意識について

― 院の定家歌への理解をめぐる ―

溝端悠朗 (M2)

・言霊倒語説を中心とした富士谷御杖の言語思想について

― 言語過程説を手がかりに ―

大橋優子 (M2)

・武者小路実篤における「理想」と「現実」

― 第一次世界大戦から「愛と死」執筆まで ―

内田さとみ (M2)

・明治後半期、女性への言説をめぐる

― 田村俊子「あきらめ」を中心に ―

佐藤晴 (M2)

《研究発表会》

九月十五日(月)

於 龍谷大学大宮学舎 清和館三階大ホール

研究発表

・ジョージ・オーウェルの『1984年』

田辺翔平 (M2)

・Literature and Religion: D. H. Lawrence's Attitude to Christianity

李華斌 (M2)

講演

・ハイロンの 'comic rhymes' に ついて — *Beppo* の場合 —

東中稜代 (龍谷大学名誉教授)

《談話会》

十一月二八日(水)

於 龍谷大学大宮学舎 英語英米文学合同研究室

・Burrughs as an Antinovelist

重田耕平 (M2)

・Jane Austen's Views on Marriage in *Pride and Prejudice*

馬素イ (M2)

・Reason and Free Will—George Orwell's *Nineteen Eighty-*

*Four and Yevgeny Zamyatin's We—*

田辺翔平 (M2)

・ Literature and Religion: D. H. Lawrence's Attitude to  
Christianity 李華斌 (M2)

・ Growth in Richard Wright's Rite of Passage  
川田泰志 (M2)

二〇一三年度(前期)

《談話会》

五月九日(木)

於 龍谷大学大宮学舎 英語英米文学合同研究室

・ 観光パンフレットにおける日本の特有語の英訳について

米田淳貴 (M1)

・ イギリスにおけるエスニックジョーク

― 関連性理論による分析 ―

森垣怜 (M1)

・ シェリーにとつての至高の存在とは何か

― 作品に見られる美への崇拜について ―

田中温子 (M1)

・ 語順と意味

山口直起 (M2)

大学院文学研究科課程博士学位取得者一覧

報  
報

報告番号	氏名	授与年月日	学位の種類	論文題目
甲第1号	日野 照正	S 60. 3 .23	文学博士	近世の淀川における水運の開展と衰退
甲第31号	那須 円照	H14. 3 .16	博士(文 学)	アビゲルマ仏教の研究 —時間・空間・涅槃—
甲第32号	崔 孝先	H14. 3 .16	博士(文 学)	初期金達寿文字の研究 —“民族”の日覚め—
甲第37号	荒木美知子	H15. 3 .15	博士(教育学)	乳児期および幼児期の「交流」の形成と発達の研究 —ソビエト心理学の研究を契機として—
甲第38号	李 濟滄	H15. 3 .15	博士(文 学)	六朝貴族の政治とその精神
甲第39号	朝木 敏子	H15. 3 .15	博士(文 学)	中世随筆の生成 —語り手の問題をめぐって—
甲第40号	島村 健司	H15. 3 .15	博士(文 学)	横光利一の文学 —表象とメディアの相関性—
甲第46号	那須真裕美	H16. 3 .13	博士(文 学)	中期中観派における二諦説の研究 —とくにパーヴィヴェーカを中心に—
甲第47号	孫 儷茗	H16. 3 .13	博士(文 学)	『婆沙論』を中心とする説一切有部の修道論
甲第48号	木田 隆文	H16. 3 .13	博士(文 学)	武田泰淳文学の生成と展開 <昭和> 言説空間との 相関から
甲第52号	木村 世雄	H17. 3 .19	博士(文 学)	真宗における阿弥陀仏身表現の思想的意義
甲第53号	高山 秀嗣	H17. 3 .19	博士(文 学)	中世浄土教者の伝道とその特質
甲第54号	岡本 健資	H17. 3 .19	博士(文 学)	Asokāvadāna の研究
甲第55号	松岡 信哉	H17. 3 .19	博士(文 学)	Faulkner's Creation of a Whole from Fragments: The Interrelations of His Novels and Short Stories in 1920s to 30s
甲第60号	脇中起余子	H17. 9 .21	博士(教育学)	K 鶴学校高等部の算数・数学における「9歳の壁」とその克服の方向性 ～手話と日本語の関係をどう考えるか～
甲第61号	原田 哲了	H18. 3 .18	博士(文 学)	『歎異抄』の研究 —真宗教学史上における宗教書としての意義—
甲第62号	那須 良彦	H18. 3 .18	博士(文 学)	説一切有部における得と衆同分の研究 —実在非実在をめぐる議論を中心に—
甲第63号	井上 博文	H18. 3 .18	博士(文 学)	涅槃経と律蔵に記される結集記事
甲第64号	池田 智文	H18. 3 .18	博士(文 学)	日本近代史学思想史的研究 —「国史学」と「皇国史観」の関係について—
甲第65号	吉田 賢司	H18. 3 .18	博士(文 学)	室町幕府一守護体制変容過程の研究
甲第77号	出羽 孝行	H18. 9 .19	博士(教育学)	中国朝鮮族の民族教育の現状に関する実証的研究
甲第80号	松本 テビッド	H19. 3 .17	博士(文 学)	浄土真宗における人間性と救済 —西洋現代真宗学の人間理解— An Approach to the Question of Humanness in Contemporary Western Shin Buddhism —the soteriological significance of disability—
甲第81号	岩田 朋子	H19. 3 .17	博士(文 学)	臥坐具健度の研究

報告番号	氏名	授与年月日	学位の種類	論文題目
甲第87号	小池 清廉	H19.9.18	博士(文学)	仏教思想と生命倫理 Bioethics from a Buddhist Viewpoint
甲第88号	彭 涛	H19.9.18	博士(文学)	景德鎮瓷業史の研究
甲第89号	高田 文英	H20.3.15	博士(文学)	浄土教における厭離穢土の教理史的研究
甲第90号	松尾 得晃	H20.3.15	博士(文学)	中国浄土教における凡夫観の展開
甲第91号	八力 廣超	H20.3.15	博士(文学)	中国浄土教における念仏思想
甲第96号	金 才権	H20.9.17	博士(文学)	中辺分別論における三性説の研究 —三性説の形成とその思想史的展開を中心として—
甲第97号	北村 一仁	H20.9.17	博士(文学)	南北朝国境地域の歴史的研究—「辺疆」と「荒」
甲第99号	佐々木大悟	H21.3.14	博士(文学)	『大阿弥陀経』の研究
甲第100号	中路 基夫	H21.3.14	博士(文学)	北原白秋 —象徴派詩人から童謡・民謡作家への軌跡—
甲第108号	大谷 由香	H21.9.17	博士(文学)	中世律宗における戒体思想の変遷
甲第109号	天野 信	H21.9.17	博士(文学)	大本経の研究 —過去仏思想と仏伝との関連性—
甲第110号	高岡 善彦	H21.9.17	博士(文学)	三論教学における空性と修道の研究
甲第111号	岡崎 秀麿	H21.9.17	博士(文学)	石泉助正論の研究
甲第112号	黒田 義道	H21.9.17	博士(文学)	浄土真宗における導き手の教学史的研究
甲第113号	浜畑 圭吾	H21.9.17	博士(文学)	読み本系平家物語の生成に関する研究
甲第114号	浅井三津恵	H21.9.17	博士(文学)	Wordsworth's Travel Poems in Scotland
甲第115号	北村 文雄	H22.3.20	博士(文学)	親鸞教義における二諦説と一異の論理
甲第116号	大谷 欣裕	H22.3.20	博士(文学)	平安期真言教学の研究 —東台兩密の教学交渉—
甲第117号	野呂 靖	H22.3.20	博士(文学)	日本中世華嚴学における成仏説の研究 —高山寺系華嚴学を中心に—
甲第125号	松島 央龍	H22.9.17	博士(文学)	無表の研究
甲第126号	三浦 和浩	H22.9.17	博士(文学)	日蓮思想の研究
甲第127号	コンカーラッタナラック プラボンサック	H22.9.17	博士(文学)	止観の研究 —初期経典から註釈文献へ及び現代タイ仏教の 実践法—
甲第128号	万波 寿子	H22.9.17	博士(文学)	西本願寺の出版と近世期京都の出版業者
甲第132号	木許 守	H23.3.19	博士(文学)	古墳時代における畿内政権の勢力拡大過程の研究
甲第133号	池田 将則	H23.3.19	博士(文学)	南北朝隋唐佛教史の研究 —敦煌出土「攝論宗」文獻の基礎的研究—
甲第136号	藤田 真証	H23.9.16	博士(文学)	西吟教学の研究 —近世初期教学の課題—
甲第137号	金沢 豊	H23.9.16	博士(文学)	『中論頌』における「見」の研究
甲第138号	金子 大輔	H23.9.16	博士(文学)	阿闍仏の研究
甲第139号	近藤俊太郎	H23.9.16	博士(文学)	天皇制国家と「精神主義」 —清沢満之とその門下—

報告番号	氏名	授与年月日	学位の種類	論文題目
甲第140号	高山 嘉明	H23.9.16	博士(文学)	幕末期朝廷の政治史的研究
甲第143号	裏 慶娥	H24.3.17	博士(文学)	Prajñākaragupta の分別 (kalpanā) 論
甲第154号	岩田 真美	H24.9.19	博士(文学)	幕末維新时期における真宗護法論の研究 —超然と月性の排耶論を中心に—
甲第155号	小野嶋祥雄	H24.9.19	博士(文学)	法宝撰『一乗仏性究竟論』の研究
甲第156号	村上 明也	H24.9.19	博士(文学)	章安灌頂の教学に関する研究
甲第157号	井上 綾瀬	H24.9.19	博士(文学)	薬韃度の研究
甲第158号	吉田 哲	H24.9.19	博士(文学)	ジネンドラブッディの認識論
甲第159号	櫻井 清華	H24.9.19	博士(文学)	『源氏物語』宇治十帖の親子関係と性 —フェミニズム批評の視座から—
甲第160号	武田 一真	H25.3.16	博士(文学)	真宗別途義の研究 —真言密教との対比を視座として—
甲第161号	亀山 隆彦	H25.3.16	博士(文学)	密教思想の日本的展開 —即身成仏を中心に—

## 『龍谷大学大学院文学研究科紀要』への投稿について

### 1. 応募資格

- (1) 博士後期課程在学者、研究生、満期依願退学者（退学後3年以内の者）。ただし、あらかじめ所属する専攻（満期依願退学者については在籍中に所属していた専攻）の承認を得ること。
- (2) 修士論文提出者で所属する専攻の推薦を得た者。

### 2. 執筆要項

- (1) 論文の種類は、研究論文、翻訳、研究ノートとする。ただし、翻訳、研究ノートについては、編集委員会で掲載本数を制限することがあるので注意すること。
- (2) 原稿枚数は、以下のとおりとする。  
研究論文・翻訳：400字詰原稿用紙50枚以内  
研究ノート：400字詰原稿用紙40枚以内  
※いずれも註等を含めた枚数である。枚数は厳守すること。  
※参考文献、引用、註等は、末尾に掲載すること。
- (3) 日本語原稿は、手書き、ワープロのいずれでもよい。  
ワープロ原稿は、B5サイズ1頁800字（50字×16行）、もしくはA4サイズ1頁1,200字（40字×30行）の設定で印刷すること。欧文（梵巴藏文を含む）原稿は、タイピング、ワープロのいずれでもよい。書式、原稿枚数等は専攻教員と相談すること。
- (4) 原稿は、必ず綴じて提出すること。

### 3. 原稿の掲載

原稿の掲載の可否については、編集委員会の査読によって決定する。

### 4. その他

- (1) 本研究科の研究成果の公開方法として、国立情報学研究所を通じて電子化を実施する。掲載された論文等（書籍情報、画像情報、本文）の著作権（著作財産権、copyright）は個人に帰属するが、電子化し公共の利用に供する場合、掲載された論文等の複製権（注1）、および公衆送信権（注2）の行使を本編集委員会に許諾することとする。

注1 複製権：著作物を有形化し、再製することに関する権利

注2 公衆送信権：著作物を公衆向けに「送信」することに関する権利

- (2) 応募日程等は、12月頃に掲示する。

## 龍谷大学大学院文学研究科紀要内規

制 定 1999年12月 8日  
一部改定 2001年 3月22日  
一部改正 2005年 2月 7日  
一部改正 2007年 7月 4日

### (目的と名称)

第1条 龍谷大学大学院文学研究科院生の学術研究を奨励し、その成果を発表する趣旨のもとに年1回これを発行する。

2 この学術雑誌は『龍谷大学大学院文学研究科紀要』(以下「紀要」という。)と称する。

### (紀要の構成)

第2条 「紀要」には、論文その他の研究成果(以下「論文」という。)ならびに課程博士論文要旨(以下「要旨」という。)を掲載する。

### (論文提出資格)

第3条 「論文」を提出できる者は次のとおりとする。

- (1) 大学院文学研究科在籍者。
- (2) 大学院文学研究科研究生。
- (3) その他編集委員会が認めた者。

### (編集委員会)

第4条 紀要の編集に関する事項を管掌するため、大学院文学研究科紀要編集委員会(以下「委員会」という。)をおく。

- 2 委員会は大学院文学研究科所属の専任教員(各専攻より1名)により構成する。
- 3 委員の任期は1年とする。ただし、再任は妨げない。
- 4 委員会に委員長をおく。委員長は委員の互選による。
- 5 委員会の招集は、委員長がおこなう。

### (論文の掲載手続き)

第5条 「論文」は、委員会の定めた募集要項に基づき、本規程第3条に該当する者によりこれを公募する。

- 2 前項の「論文」はあらかじめ所属する専攻(満期依願退学者については在籍中に所属していた専攻)の承認または推薦に基づき、委員会が査読し承認したものを掲載する。
- 3 「要旨」は、原則として前年度課程博士修了者全員の課程博士論文要旨を掲載する。

### (事務)

第6条 紀要に関する事務は研究部(仏教文化研究所事務室)がおこなう。

### 付 則

第1条 この規程は、2000年4月1日より施行する。

付 則 (2001年3月22日第6条改正)

この規程は、2001年4月1日より施行する。

付 則 (2005年2月7日タイトル、第2条、第4条、第5条、第6条改正)

第1条 この規程は、2005年11月1日より施行する。

付 則 (2007年7月4日第5条改正)

第1条 この規程は、2007年7月4日より施行する。

## 【編集後記】

龍谷大学大学院文学研究科紀要第35集をお届けいたします。今回は応募研究論文7篇と修士論文に基づく研究論文12篇、課程博士論文要旨8篇の計27篇を掲載することが出来ました。論文をまとめるに当たってご指導いただきました先生方には心よりお礼申し上げます。この紀要の論文掲載の中、応募研究論文につきましては10篇の枠がありますので、今後は予定を遙かに超えるほどの応募がありますよう期待しております。また彙報にある院生の研究活動を見ますと、学内の研究会だけでなく学外の全国学会の場でも研究発表している方が増えており、何より好ましい傾向だと思っております。引き続きこれを推し進めていってくださるようお願いしております。後になりましたが、この紀要を予定どおり発行することが出来たのも編集委員の先生方並びに執筆者の方のご協力と、事務を担当してくださった中嶋一博さんのご尽力の賜物です。心より深謝申し上げます。

(大取一馬 記)

## 龍谷大学大学院文学研究科紀要編集委員会

委員長 大 取 一 馬

委員 内 藤 知 康・入 澤 崇・松 尾 宣 昭

郷 式 豊・東 豊・平 林 章 仁

北 村 高・ラザリンマイケル

龍谷大学大学院文学研究科紀要 2013年度

第35集

平成25年(2013)12月17日 印 刷

平成25年(2013)12月25日 発 行

編 集 龍谷大学大学院文学研究科紀要編集委員会

600-8268 京都市下京区七条通大宮

東入大工町125番地の1

TEL.075(343)3311 内5400

FAX.075(343)4022

印 刷 (株) 図 書 同 朋 舎  
印 刷

## CONTENTS

### Articles:

- Qualitative Research of Gender-Role Attitudes and Marital Satisfaction  
 —From the Viewpoint of the Wife— .....Mari KANO... 1
- The Scene of Nirvāṇa along with *Shijia pu*  
 —A study of the Stele with Buddha's Nirvāṇa Relief at Shanxi Museum—  
 .....Yuuri KISHIDA... 17
- Aristotle's Solution to the Problem of Fatalism in *De Interpretatione* IX  
 .....Kyohei KANEDA... 33
- The Educational Study of the Literary Theory by Saigou .....Satoshi MURAO... 48
- Effect of the Psychological Support by Psychotherapist at Residential  
 Childcare Institutions.....Misuzu KAMIZONO... 63
- Reason and Free Will  
 —People's Inner Spirits in George Orwell's *Nineteen Eighty-Four* and  
 Yevgeny Zamyatin's *We*— .....Shohei TANABE... 80

### Dissertation Abstracts (“Katei Hakase”):

- A Study of the Chapter on Medicine and Food  
 —Vinaya Piṭaka's Bhesajja-Khandaka— .....Ayase INOUE... 102
- The Epistemology of Jinendrabuddhi .....Akira YOSHIDA... 110

**Articles:**

- Aspiration for Birth in Tan-luan's Commentary on Vasubandhu's Discourse on the Pure Land .....Junshin UCHIDA... 1
- The Lost Place of the Bandō Manuscript of the Kyōgyōshinshō  
 “Chapter on Transformed Buddha-Bodies and Lands” (Second Fascicle)  
 .....Naoya TAKESUE... 13
- The Development of the Interpretation of Vajra-śekhara-Vimāna-sarva-yoga-yogi-sūtra (Yugi-kyō) .....Seiko KAGIWADA... 28
- Studies on Chinese Consciousness-Only Documents Quoted in Japanese  
 Consciousness-Only Literatures — The Understandings of Dilun and  
 Shelun Schools for the Laṅkāvatāra-sūtra as the Center .....Zijie LI... 40
- Narrative of Tamakazura and Her Stepchild: Stepchild Themes in the “Takekawa”  
 Chapter of Genji-Monogatari.....Manabu SAKURAI... 54
- Study of the Editing Process of “Shinchoko-ki” (Biography of Nobunaga Oda)  
 .....Natsumi NAKAMURA... 66
- A Study of Huaigan's Pure Land Teaching: in Comparison with Shandao's  
 Pure Land Teaching .....Tatsuya ENOKIYA... 83
- A Study of Buddha—Nature in Jodo Shinshu—The A Originality of Shinran's Buddha—  
 Nature—Thought— .....Hironori KAWABE... 100
- A Study of Ryukan's Pure Land Teaching .....Ryoshin TOKU... 115
- A Study of Myohen's Thought .....Yoshiya NISHIMURA... 128
- The Formation and Development of the Idea of Motoori Norinaga in the Kyoto Leisure  
 Education Period .....Kenta KOBAYASHI... 142
- The An (庵) and Huandu (環堵) in Quanzhen (全真) Daoism  
 .....Hiroataka KAWAMATA... 158
- The Termination of *THE TALE OF GENJI* and Kaoru.  
 —A letter from the Priest for Ukifune, to Kaoru.— .....Kumiko KAMEI... 170
- Dissertation Abstracts (“Katei Hakase”):**
- A Study of Jodo Shinshu Buddhist Apologetics in the Late Edo and Early Meiji Periods:  
 Focusing on anti-Christian Theory by Chōnen and Gesshō .....Mami IWATA... 187
- A Study of Fabao's Yisheng Faxing Jujinglun .....Sachio ONOSHIMA... 193
- A Study of Tientai Buddhist Doctrine of Zhangan Guanding Akiya MURAKAMI... 201
- A Study of Sexuality and Parent-Child Relationships of Uji-Jujo, *The Tale of Genji*  
 —Analysis from the Perspective of Feminism Criticism— ...Kiyoka SAKURAI... 209
- A Study of Originality of Shin Buddhism  
 —Through a Comparison with Shingon Buddhism— .....Kazuma TAKEDA... 216
- The Development of Esoteric Buddhist Thought in Japan: A Study of the Doctrine  
 of Attaining Buddhahood in This Very Body in Shingon and Tendai Thought.  
 .....Takahiko KAMEYAMA... 222

ISSN 1348-267X

RYUKOKU UNIVERSITY  
**THE BULLETIN**  
**OF**  
**THE GRADUATE SCHOOL**  
**OF LETTERS**

No. 35

2013年度

THE GRADUATE SCHOOL  
OF  
RYUKOKU UNIVERSITY  
Kyoto, Japan